

2021年5月期(第35期) 第2四半期 決算説明会

2020年12月25日 株式会社ウェザーニューズ 代表取締役 草開 千仁





2021年5月期 第2四半期実績

【全般】

- 連結業績
- 売上高増減分析
- 営業利益増減分析

【個別分析】

- Sea Planning
- Mobile/Internet Planning

【投資状況】

• 投資の状況

【株主還元】

• 中間配当

【2021年5月期 業績予想】

業績見通し

今後の業績目標

【中期経営計画】

- 重点施策
- 主要な事業の計画
 - Sea Planning
 - Mobile/Internet Planning
- ESG/SDGsへの取り組み
- 中計3か年計画



2021年5月期第2四半期実績

2021年5月期 第2四半期 連結業績

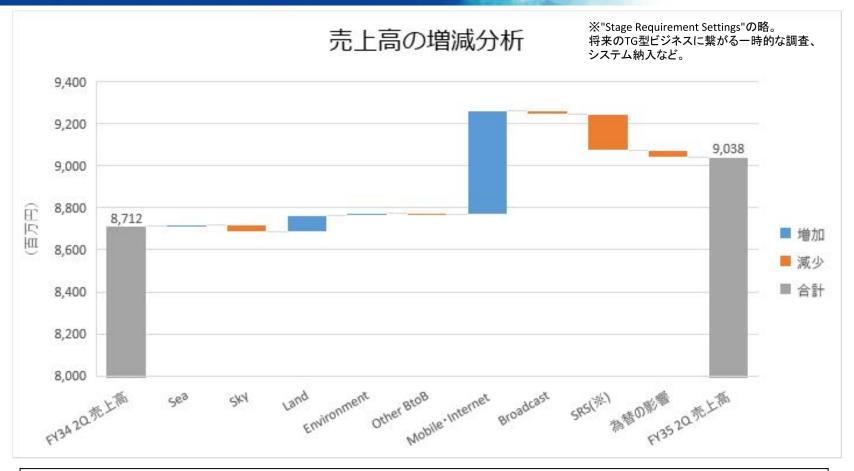


(単位:百万円)		2020.5期 (第34期) 上期実績	2021.5期 (第35期) 上期実績	伸び率 (%)	2021.5期 (第35期) 上期予想
売上高		8,712	9,038	3.7	9,400
	TG (BtoB)	4,601	4,624	0.5	4,780
	TG (BtoS)	3,560	4,035	13.3	4,060
	SRS	550	378	△31.4	560
営業利益		759	816	7.5	500
経常利益		786	812	3.3	500
親会社株主に帰属する 当期純利益		559	578	3.4	400
EPS(円)		51.18	52.81	3.2	36.49

- [TG(BtoB)] Sea・Skyの売上減少するもLandの売上増加により0.5%増収
- [TG(BtoS)] Mobileのアプリのサブスクリプションと広告売上の好調により13.3%増収
- [SRS] Landの売上減少、Broadcastの納品ズレなどにより31.3%減収
- [営業利益] 広告投資の期ズレ、旅費交通費減少により7.5%増収

2021年5月期 売上高増減分析

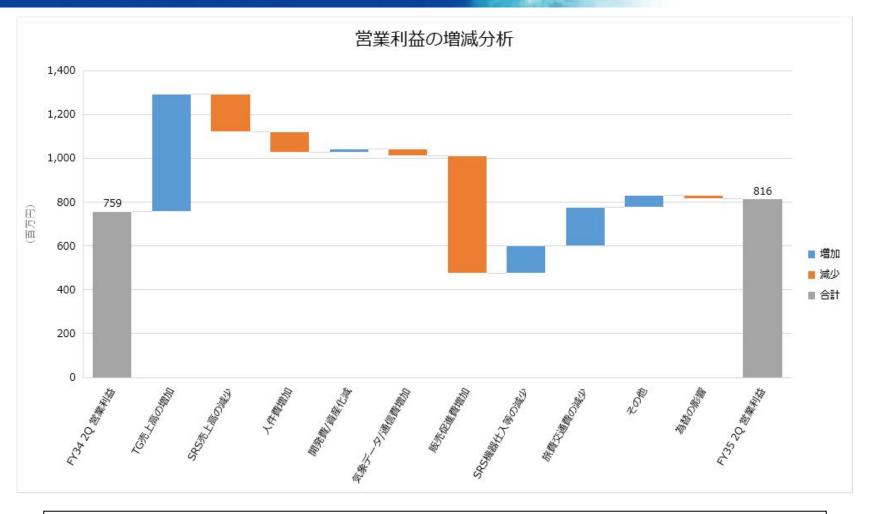




<btob></btob>	∙Land ∙Sea∙Sky	新規顧客獲得、既存顧客の単価増により増収 コロナ影響あるも新規顧客獲得などで売上は同水準
<btos></btos>	• Mobile	アプリのサブスクリプション売上・広告売上が増加
<srs></srs>	∙Land •Broadcast	前期の調査委託の反動減で減収 コロナ影響で放送局への機器納品が遅れ減収

2020年5月期 営業利益増減分析



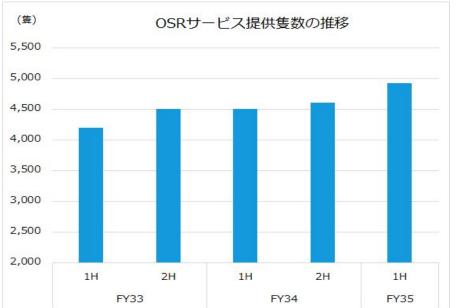


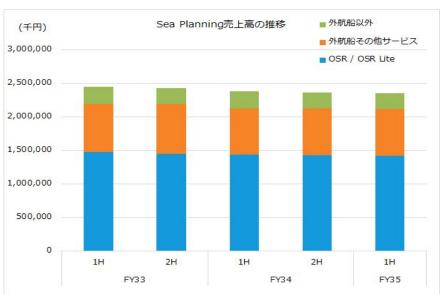
- TVCMなど広告投資による販売促進費の増加
- コロナ影響による旅費交通費の減少
- エンジニア人財強化による人件費の増加

Sea Planning



- 昨年度末からのコロナの影響により市況 低迷。荷動きが鈍化し売上は横ばい
- 新規顧客獲得及び冬場の荒天による ニーズの高まりでOSRサービス隻数は 4,900隻に増加(前期末4,600隻)
- OSR単価は横ばい



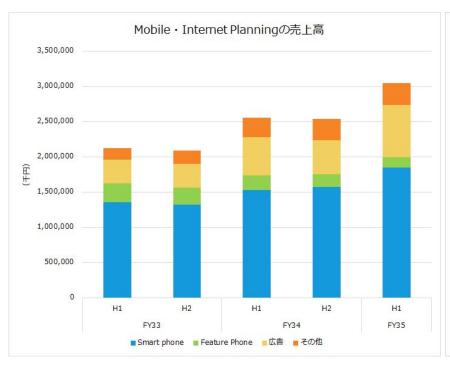


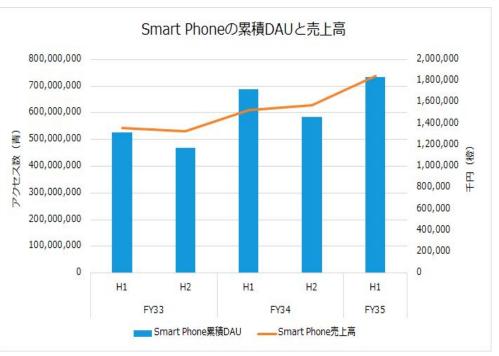


Mobile Internet Planning



- DevOpsによる独自コンテンツの充実、及び広告投資の強化によりトラフィックが増大
- トラフィック増大によりDAU (Daily Active Users*)が増加し、Smart phone向けサブスクリプション売上・広告売上が成長





*1日にサービスを利用したユーザー(アクティブユーザー)の数の累積のこと。 天気は毎日利用することから、累積DAUがWNIビジネスにマッチする指標として採用。 Smart phoneの累積DAUの算出には、アプリ(ウェザーニュース), Smartweb,キャリア提供コンテンツ等のアクセス数を自動集計。



(単位:百万円)	2020.5期 (第34期) 上期実績	2021.5期 (第35期) 上期実績
設備投資	423	302
減価償却	354	393
研究開発	318	279
従業員数(連結)	1,036名	1,060名

- [全体] 前期までの積極投資期間の終了により減少傾向
- [設備投資] 前期のスタジオ設備・観測機整備の反動減、及び クラウド化推進に伴うサーバー投資の減少
- [減価償却] ソフトウェア償却の増加
- [研究開発] 衛星の減価償却率の低下、及び一部研究が実用化フェーズに進んだため減少

株主還元



方針

「高貢献、高収益、高分配」の基本理念の下、TGビジネスが継続的に成長していることから、期初計画の1株あたり年間配当金基準100円をベースに、期末配当を50円とします。

直近の配当実績

	中間配当	期末配当	合計(年間)
2018.5期	50円	50円	100円
2019.5期	50円	50円	100円
2020.5期	50円	50円	100円
2021.5期	50円	(予想) 50円	(予想) 100円

2021年5月期(第35期)連結業績予想



(単位:百万円)	2020.5期 (第34期)		2021.5期 (第35期)			通期伸び率
	上期実績	通期実績	上期実績	通期予想 (修正)	通期予想 (期初)	(%)
売上高	8,712	17,953	9,038	18,800	19,200	4.7
営業利益	759	2,280	816	2,300	2,300	0.8
経常利益	786	2,188	812	2,300	2,300	5.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	559	1,629	578	1,700	1,700	4.4
EPS(円)	51.18	149.01	52.81	155.07	155.07	4.1

- 新型コロナウイルス影響継続につき、通期の予想売上高を19,200百万円から18,800百万円に下方修正(売上高自体は12期連続の増収を計画)
- 旅費交通費等の営業活動費の減少、及び各種費用の最適化により 第35期の通期利益見込みは据置きとする(前期比で同益程度)



今後の業績目標

中期経営計画 (20.5月期~22.5月期) の重点施策



第四成長期 Stage3

Global Business (BtoB 50:50)

BtoB市場において国内・海外売上を50:50に

市場展開

- 1 交通気象・環境気象のグローバル展開
- 2 予測精度No.1 & コンテンツ化による生産性向上
- 3 マーケットを後押しするクラウド展開
- 4 気候変動に対応した新規事業

経営基盤

- 1 事業を通じた持続可能な社会への貢献(ESG 投資)
- 2 働きがい向上(アントレプレナーシップの活性)

Sea Planning

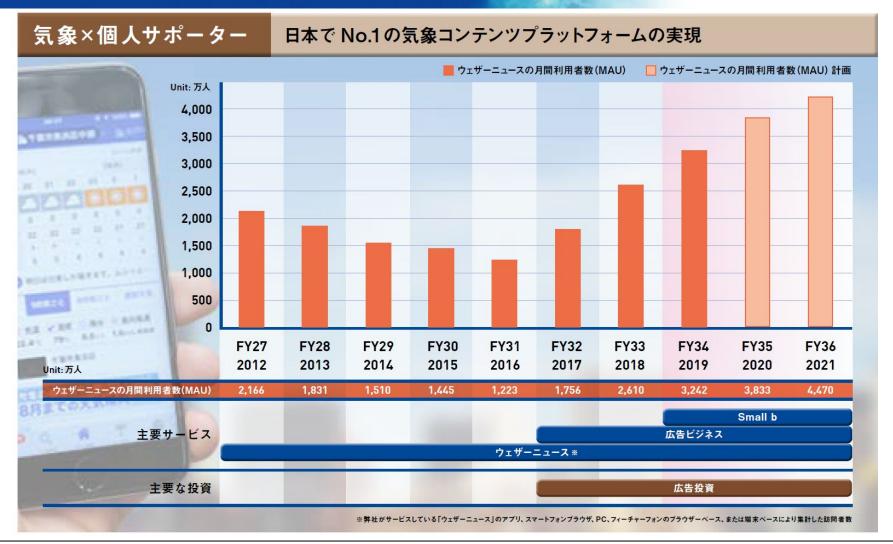




- コロナ影響に伴う販売進捗・サービス開発の遅れにより、10,000隻の達成はFY37へ
- 船隊計画全体の最適化サービスであるLOOP・T-Maxの拡販によりOSR隻数増加を狙う
- 沿岸部を含むダメージリスクの対応策サービスNAR(Navigation Assessment & Routing) を展開予定

Mobile Internet Planning





- MAUの上昇によるアプリ会員の更なる増加と広告事業の成長により継続的な増収を計画
- FY34のMAU実績が計画を上回ったため、FY35期初にてMAU目標値を上方修正済

[ESG/SDGs] ウェザーニューズのマテリアリティ



気象を事業ドメインとするWNIは本業での価値創造を通じてSDGsに貢献

① 気候変動の緩和







価値創造

② 強靭な街づくり







価値創造を 実現する基盤づくり ③ 技術革新& パートナーシップ



17 パートナーシップで 目標を達成しよう





④ ダイバーシティ& インクルージョン







社会から信頼されるための ガバナンス 持続的な価値創造を実現するガバナンス体制とコンプライアンス

What's Materiality

- •SDGsのキーは「事業を通じた社会課題への貢献」
- ・マテリアリティとは、企業・社会双方にとって重要な課題であり、企業が集中的に取り組むべきテーマ

[ESG/SDGs] マテリアリティ①気候変動の緩和



テーマ: 気象・気候を味方につけ、気候変動の緩和に貢献

これまで蓄積してきた気象技術・顧客ビジネスの支援のノウハウを元に、事業活動におけるCO₂排出量の削減やフードロス削減など、企業の事業利益最大化と環境負荷低減に貢献。



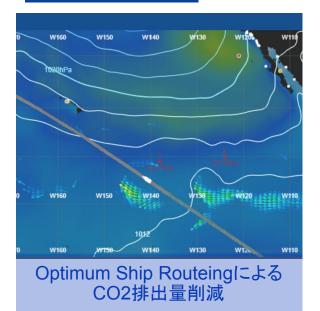








具体的な取り組み



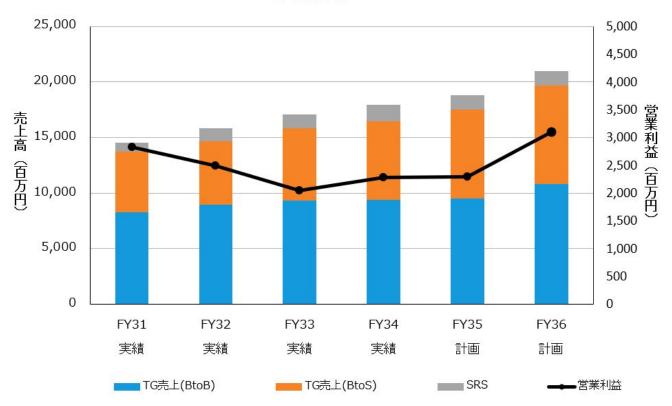




中期経営計画 3か年計画







- 売上面では、BtoBにおいては新サービス投入による交通気象を中心としたTG増、BtoSでは引続 きニュース配信やコンテンツ拡充などによるサブスクリプション売上および広告売上の増加を目指 す
- 営業利益面では、DevOps体制推進に伴うソフトウェア開発の効率化・サービス運営生産性の向上等、費用最適化を併せて実行することでFY36は中計当初目標の3,100百万円を見込む

